

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| | | |
|--|--------------------------|-------------------------|
| 事業番号 D-1-15 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：東部 519 号線） | | |
| 事業費総額 63,760 千円（国費 49,414 千円） （内訳：本工事費 45,056 千円、測量設計費 14,381 千円、用地費及補償費 4,323 千円） | | |
| 事業期間 平成 24 年度～令和元年度 | | |
| 事業目的 東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。 | | |
| 事業地区 相馬市磯部地区 | | |
| 事業結果 磯部字迎地区と市街地の相互接続道を整備し、平成 28 年度から供用を開始。 【整備概要】 延長 L=307.2m、舗装幅員 W=5.0m | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備後</p> </div> </div> | | |
| 事業の実績に関する評価 | | |
| ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 本事業により、災害発生時に安全な市街地へ確実に通行できる道路を整備したことで、磯部字迎地区（令和 3 年 3 月末現在 31 世帯 89 名が居住）の地域住民の生活の安全性、利便性の向上に寄与している。 | | |
| ②コストに関する調査・分析・評価 本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものとする。 | | |
| ③事業手法に関する調査・分析・評価 | | |
| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
| 測量・設計 | 平成 24 年 6 月～平成 25 年 3 月 | 平成 24 年 7 月～平成 26 年 3 月 |
| 用地買収 | 平成 24 年 12 月～平成 25 年 9 月 | 平成 27 年 2 月～令和 2 年 2 月 |
| 工 事 | 平成 25 年 10 月～平成 26 年 3 月 | 平成 27 年 3 月～平成 28 年 8 月 |
| 相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地の用地交渉、及び道路法線に係る | | |

地元調整に不測の日数を要したことから、測量・設計及び用地買収の事業期間が当初の想定より延長となった。用地買収については、事前に地権者等に了解を得た上で着工し、工事と並行しながら買収手続きを進めることで事業期間全体の短縮を図った。

また、当時は復興工事が各地で重なり、労働者確保や他工事との工程調整に時間を要したが、全体的なスケジュールを見直し、円滑な事業進捗を図ったことにより、類似事業と同程度の工程とすることができ、利用等には問題がなかったことから、事業手法は適切であったと評価できる。

事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| | | |
|--|------------------|------------------|
| 事業番号 D-1-16 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：東部520号線） | | |
| 事業費総額 16,945千円（国費13,132千円） （内訳：本工事費12,462千円、測量設計費2,532千円、用地費及補償費1,951千円） | | |
| 事業期間 平成24年度～平成27年度 | | |
| 事業目的 東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。 | | |
| 事業地区 相馬市磯部地区 | | |
| 事業結果 磯部字迎地区と市街地の相互接続道を整備し、平成27年度から供用を開始。 【整備概要】 延長L=118.5m、舗装幅員W=5.0m | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備後</p> </div> </div> | | |
| 事業の実績に関する評価 | | |
| ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 本事業により、災害発生時に安全な市街地へ確実に通行できる道路を整備したことで、磯部字迎地区（令和3年3月末現在31世帯89名が居住）の地域住民の生活の安全性、利便性の向上に寄与している。 | | |
| ②コストに関する調査・分析・評価 本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものとする。 | | |
| ③事業手法に関する調査・分析・評価 | | |
| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
| 測量・設計 | 平成24年6月～平成25年3月 | 平成24年7月～平成26年3月 |
| 用地買収 | 平成24年12月～平成25年9月 | 平成27年1月～平成27年3月 |
| 工事 | 平成25年10月～平成26年3月 | 平成26年11月～平成27年5月 |
| 相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地の用地交渉、及び道路法線に係る地元調整に不測の日数を要したことから、測量・設計及び用地買収の事業期間が当初 | | |

の想定より延長となった。

また、当時は復興工事が各地で重なり、労働者確保や他工事との工程調整に時間を要したが、全体的なスケジュールを見直し、円滑な事業進捗を図ったことにより、類似事業と同程度の工程とすることができ、利用等には問題がなかったことから、事業手法は適切であったと評価できる。

事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| | | |
|--|--------------------------|--------------------------|
| 事業番号 D-1-17 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：東部 521 号線） | | |
| 事業費総額 760,549 千円（国費 589,425 千円） （内訳：本工事費 687,009 千円、測量設計費 39,821 千円、用地費及補償費 33,719 千円） | | |
| 事業期間 平成 24 年度～平成 29 年度 | | |
| 事業目的 東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。 | | |
| 事業地区 相馬市磯部地区 | | |
| 事業結果 磯部字迎地区と市街地の相互接続道を整備し、平成 28 年度から供用を開始。 【整備概要】 延長 L=1,227.4m、舗装幅員 W=7.0m | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備後</p> </div> </div> | | |
| 事業の実績に関する評価 | | |
| ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 本事業により、災害発生時に安全な市街地へ確実に通行できる道路を整備したことで、磯部字迎地区（令和 3 年 3 月末現在 31 世帯 89 名が居住）の地域住民の生活の安全性、利便性の向上に寄与している。 | | |
| ②コストに関する調査・分析・評価 本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものとする。 | | |
| ③事業手法に関する調査・分析・評価 | | |
| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
| 測量・設計 | 平成 24 年 6 月～平成 25 年 3 月 | 平成 24 年 7 月～平成 27 年 1 月 |
| 用地買収 | 平成 24 年 12 月～平成 25 年 9 月 | 平成 26 年 4 月～平成 29 年 10 月 |
| 工 事 | 平成 25 年 10 月～平成 28 年 3 月 | 平成 26 年 7 月～平成 29 年 1 月 |
| 相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地の用地交渉、及び道路法線に係る地元調整に不測の日数を要したことから、測量・設計及び用地買収の事業期間が当初 | | |

の想定より延長となった。用地買収については、事前に地権者等に了解を得た上で着工し、工事と並行しながら買収手続きを進めることで事業期間全体の短縮を図った。

また、当時は復興工事が各地で重なり、労働者確保や他工事との工程調整に時間を要したが、全体的なスケジュールを見直し、円滑な事業進捗を図ったことにより、類似事業と同程度の工程とすることができ、利用等には問題がなかったことから、事業手法は適切であったと評価できる。

事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| | | |
|--|--------------------------|------------------------|
| 事業番号 D-1-18 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：東部 462 号線） | | |
| 事業費総額 1,038,800 千円（国費 805,070 千円） （内訳：本工事費 885,803 千円、測量設計費 106,051 千円、用地費及補償費 46,946 千円） | | |
| 事業期間 平成 24 年度～令和 3 年度 | | |
| 事業目的 東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。 | | |
| 事業地区 相馬市磯部地区 | | |
| 事業結果 磯部字狐穴地区と市街地の相互接続道を整備し、令和 3 年度から供用を開始。 【整備概要】 延長 L=1611.0m、舗装幅員 W=5.0m | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備後</p> </div> </div> | | |
| 事業の実績に関する評価 | | |
| ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 磯部字狐穴地区には令和 3 年 3 月末現在で、23 世帯 58 名が居住している。 事業目的のとおり、被災した地域から市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる舗装幅員 W=5.0m の道路となり、地域住民の生活の安全性、利便性の向上させるものとなっている。 | | |
| ②コストに関する調査・分析・評価 本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものと考えている。 | | |
| ③事業手法に関する調査・分析・評価 | | |
| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
| 測量・設計 | 平成 24 年 6 月～平成 25 年 3 月 | 平成 24 年 7 月～令和 3 年 2 月 |
| 用地買収 | 平成 24 年 12 月～平成 25 年 3 月 | 平成 28 年 4 月～令和元年 4 月 |
| 工 事 | 平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月 | 平成 24 年 8 月～令和 3 年 6 月 |

道路線形について地元との調整に不測の日数を要したこと、また道路用地に相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地等があり、測量・設計及び用地買収に当初想定した期間よりも時間を要した。

また、災害復旧工事などの他工事との調整にも不測の時間を要した。さらに、令和元年東日本台風により被害を受けたことや、新型コロナウイルスによる人材の確保困難等もあり、関連する事業を含め、全体的なスケジュールを見直す必要が生じたが、他工事との工程調整を行い、円滑な事業進捗を図ることができたことから、事業手法は適切であったと評価できる。

事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-1-19
 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：金草線）

事業費総額 553,161千円（国費 428,700千円）
 （内訳：本工事費 426,414千円、測量設計費 61,253千円、用地費及補償費 65,494千円）

事業期間 平成24年度～平成30年度

事業目的

東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。

事業地区

相馬市磯部地区

事業結果

磯部字金草地区と市街地の相互接続道を整備し、平成30年度から供用を開始。

【整備概要】

延長 L=1,870.8m、舗装幅員 W=5.0m



整備前



整備後

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

本事業により、災害発生時に安全な市街地へ確実に通行できる道路を整備したことで、磯部字金草地区（令和3年3月末現在18世帯45名が居住）の地域住民の生活の安全性、利便性の向上に寄与している。

②コストに関する調査・分析・評価

本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものとする。

③事業手法に関する調査・分析・評価

| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
|-------|------------------|------------------|
| 測量・設計 | 平成24年6月～平成25年3月 | 平成24年7月～平成29年10月 |
| 用地買収 | 平成24年12月～平成27年3月 | 平成27年1月～平成30年11月 |
| 工事 | 平成25年10月～平成28年3月 | 平成27年8月～平成31年1月 |

相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地の用地交渉、及び道路法線に係る地元調整に不測の日数を要したことから、測量・設計及び用地買収の事業期間が当初

の想定より延長となった。

また、当時は復興工事が各地で重なり、労働者確保や他工事との工程調整に時間を要したが、全体的なスケジュールを見直し、円滑な事業進捗を図ったことにより、類似事業と同程度の工程とすることができ、利用等には問題がなかったことから、事業手法は適切であったと評価できる。



事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| | | |
|---|--------------------------|-------------------------|
| 事業番号 D-1-20 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：東部 491 号線） | | |
| 事業費総額 75,237 千円（国費 58,309 千円） （内訳：本工事費 67,094 千円、測量設計費 7,477 千円、用地費及補償費 666 千円） | | |
| 事業期間 平成 24 年度～平成 28 年度 | | |
| 事業目的 東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。 | | |
| 事業地区 相馬市磯部地区 | | |
| 事業結果 磯部字大浜地区と市街地の相互接続道を整備し、平成 28 年度から供用を開始。 【整備概要】 延長 L=769.0mm、舗装幅員 W=5.0m | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備後</p> </div> </div> | | |
| 事業の実績に関する評価 | | |
| ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 本事業により、災害発生時に安全な市街地へ確実に通行できる道路を整備したことで、磯部字大浜地区（令和 3 年 3 月末現在 12 世帯 31 名が居住）の地域住民の生活の安全性、利便性の向上に寄与している。 | | |
| ②コストに関する調査・分析・評価 本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものとする。 | | |
| ③事業手法に関する調査・分析・評価 | | |
| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
| 測量・設計 | 平成 24 年 6 月～平成 25 年 3 月 | 平成 24 年 7 月～平成 27 年 3 月 |
| 用地買収 | 平成 24 年 12 月～平成 27 年 3 月 | 平成 27 年 4 月～平成 27 年 7 月 |
| 工 事 | 平成 25 年 10 月～平成 28 年 3 月 | 平成 27 年 3 月～平成 28 年 8 月 |
| 相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地の用地交渉、及び道路法線に係る地元調整に不測の日数を要したことから、測量・設計及び用地買収の事業期間が当初 | | |

の想定より延長となった。

また、当時は復興工事が各地で重なり、労働者確保や他工事との工程調整に時間を要したが、全体的なスケジュールを見直し、円滑な事業進捗を図ったことにより、類似事業と同程度の工程とすることができ、利用等には問題がなかったことから、事業手法は適切であったと評価できる。

事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| | | |
|--|--------------------------|--------------------------|
| 事業番号 D-1-21 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：東部 501 号線） | | |
| 事業費総額 155,290 千円（国費 120,349 千円） （内訳：本工事費 126,074 千円、測量設計費 18,716 千円、用地費及補償費 10,500 千円） | | |
| 事業期間 平成 24 年度～平成 30 年度 | | |
| 事業目的 東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。 | | |
| 事業地区 相馬市磯部地区 | | |
| 事業結果 磯部字大浜地区と市街地の相互接続道を整備し、平成 29 年度から供用を開始。 【整備概要】 延長 L=336.4m、舗装幅員 W=5.0m | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>整備前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>整備後</p> </div> </div> | | |
| 事業の実績に関する評価 | | |
| ①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 本事業により、災害発生時に安全な市街地へ確実に通行できる道路を整備したことで、磯部字大浜地区（令和 3 年 3 月末現在 12 世帯 31 名が居住）の地域住民の生活の安全性、利便性の向上に寄与している。 | | |
| ②コストに関する調査・分析・評価 本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものとする。 | | |
| ③事業手法に関する調査・分析・評価 | | |
| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
| 測量・設計 | 平成 24 年 6 月～平成 25 年 3 月 | 平成 24 年 7 月～平成 28 年 3 月 |
| 用地買収 | 平成 24 年 12 月～平成 27 年 3 月 | 平成 28 年 4 月～平成 31 年 1 月 |
| 工 事 | 平成 25 年 10 月～平成 28 年 3 月 | 平成 27 年 3 月～平成 29 年 11 月 |
| 相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地の用地交渉、及び道路法線に係る地元調整に不測の日数を要したことから、測量・設計及び用地買収の事業期間が当初 | | |

の想定より延長となった。用地買収については、事前に地権者等に了解を得た上で着工し、工事と並行しながら買収手続きを進めることで事業期間全体の短縮を図った。

また、当時は復興工事が各地で重なり、労働者確保や他工事との工程調整に時間を要したが、全体的なスケジュールを見直し、円滑な事業進捗を図ったことにより、類似事業と同程度の工程とすることができ、利用等には問題がなかったことから、事業手法は適切であったと評価できる。

事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-1-22
事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：鹿島前迫線）

事業費総額 224,711千円（国費 174,151千円）
 （内訳：本工事費 196,525千円、測量設計費 18,444千円、用地費及補償費 9,742千円）

事業期間 平成24年度～令和元年度

事業目的

東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。

事業地区

相馬市蒲庭地区

事業結果

蒲庭字前迫地区と市街地の相互接続道を整備し、平成29年度から供用を開始。

【整備概要】

延長 L=735.0m、舗装幅員 W=5.0m



整備前



整備後

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

本事業により、災害発生時に安全な市街地へ確実に通行できる道路を整備したことで、蒲庭字前迫地区（令和3年3月末現在5世帯19名が居住）の地域住民の生活の安全性、利便性の向上に寄与している。

②コストに関する調査・分析・評価

本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものとする。

③事業手法に関する調査・分析・評価

| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
|-------|------------------|------------------|
| 測量・設計 | 平成24年6月～平成25年3月 | 平成24年7月～平成27年3月 |
| 用地買収 | 平成24年12月～平成25年9月 | 平成26年9月～令和元年6月 |
| 工事 | 平成25年10月～平成28年3月 | 平成26年12月～平成30年3月 |

相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地の用地交渉、及び道路法線に係る地元調整に不測の日数を要したことから、測量・設計及び用地買収の事業期間が当初

の想定より延長となった。用地買収については、事前に地権者等に了解を得た上で着工し、工事と並行しながら買収手続きを進めることで事業期間全体の短縮を図った。

また、当時は復興工事が各地で重なり、労働者確保や他工事との工程調整に時間を要したが、全体的なスケジュールを見直し、円滑な事業進捗を図ったことにより、類似事業と同程度の工程とすることができ、利用等には問題がなかったことから、事業手法は適切であったと評価できる。



事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図




【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| |
|---|
| 事業番号 D-1-24, D-1-29 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（県道：相馬亘理線） |
| 事業費 総額 1,014,629 千円（国費：807,780 千円） 内訳：調査設計費 62,300 千円 用地費及び補償費 374,749 千円 本工事費 577,580 千円 |
| 事業期間 平成24年度～令和2年度 |
| 事業目的 当該地区（相馬市原釜地区）は、津波により壊滅的な被害を受けた。当路線は、市の防災集団移転促進事業の移転跡地に、津波の減衰等を目的とする防災緑地事業が実施されることに伴い、形状に沿った新ルートでの道路整備となった。 事業地区 相馬市原釜尾浜（相馬亘理線） |
| 事業結果 平成30年度供用開始 L=2,000m W=6.0(10.0)m |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【工事前】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【竣工後】</p> </div> </div> |
| 事業の実績に関する評価 <ol style="list-style-type: none"> ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 事業目的のとおり、当該地区における新たな土地利用に沿った道路となり、安全・安心なまちの復興再生を推進させるものとなっている。 ② コストに関する調査・分析・評価 入札により委託及び工事の契約締結したことや再生材の活用や現場発生材を有効利用した等から、事業コストは適切であったと評価できる。 ③ 事業手法に関する調査・分析・評価 <ul style="list-style-type: none"> ・ 想定した事業期間：平成24年4月～平成28年3月 ・ 実際に事業に有した事業期間：平成24年4月～令和3年3月 防災緑地などの他工事との調整に不測の時間を要した。このため、関連する事業を含め、全体的なスケジュールを見直す必要が生じたが、他工事との工程調整を行い、円滑な事業進捗を図ることで、利用等に問題が生じることがなかった。また、類似事業と同程度の工程とすることができたことから、事業手法は適切であったと評価できる。 |
| 事業担当部局 福島県土木部道路整備課 電話番号：024-521-7476 |

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| |
|---|
| 事業番号 D-1-25 事業名 道路事業（市街地相互の接続道路等） |
| 事業費 総額 790,950 千円（国費：632,761 千円） 内訳：調査設計費 65,700 千円 用地費及び補償費 35,200 千円 本工事費 690,050 千円 |
| 事業期間 平成24年度～平成29年度 |
| 事業目的 当該地区（磯部地区）は、津波により壊滅的な被害を受け、全壊となったため、防災集団移転事業により高台移転を実施したが、内陸部の集落は現地に再建する計画となった。本事業目的は、その現地再建計画箇所の津波被害の軽減を図ることを目的とした道路整備である。当道路計画は、シミュレーション等による検討の結果、市道との「二線堤」を担う盛土構造となった。 |
| 事業地区 相馬市磯部（原町海老相馬線） |
| 事業結果 平成29年度供用開始 |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【工事前】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【竣工後】</p> </div> </div> |
| 事業の実績に関する評価 |
| ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 事業目的のとおり、当該地区における新たな土地利用に沿った道路となり、安全・安心なまちの復興再生を推進させるものとなっている。 |
| ② コストに関する調査・分析・評価 条件付き一般競争入札により業者を選定し、再生材の活用や現場発生材を有効利用したこと等から、事業コストは適切であったと評価できる。 |
| ③ 事業手法に関する調査・分析・評価 ・ 想定した事業期間：平成24年5月～平成28年3月 ・ 実際に事業に有した事業期間：平成24年5月～平成29年10月 災害復旧工事などの他工事との調整に不測の時間を要した。このため、関連する事業を含め、全体的なスケジュールを見直す必要が生じたが、他工事との工程調整を行い、円滑な事業進捗を図ることにより、類似事業と同程度の工程とすることができたことから、事業手法は適切であったと評価できる。 |
| 事業担当部局 福島県土木部道路整備課 電話番号：024-521-7476 |

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

| |
|---|
| 事業番号 D-1-26, D-1-30 事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（県道：原町海老相馬線） |
| 事業費 総額 1,245,130 千円（国費：993,576 千円） 内訳：調査設計費 53,817 千円 用地費及び補償費 22,505 千円 本工事費 1,168,808 千円 |
| 事業期間 平成24年度～令和2年度 |
| 事業目的 当該地区（相馬市蒲庭地区）は、津波により壊滅的な被害を受けた。 当路線は、当該地区を南北に結ぶ道路であったが、沿岸部に海岸防災林が計画されたことから、隣接する農地にて圃場整備事業内に非農用地設定を行い、新たなルートでの道路整備となった。 事業地区 相馬市蒲庭（原町海老相馬線） |
| 事業結果 令和2年度供用開始 L = 1,500m W = 6.0(10.0)m |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>【工事前】</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【竣工後】</p> </div> </div> |
| 事業の実績に関する評価 <ol style="list-style-type: none"> ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価 事業目的のとおり、当該地区における新たな土地利用に沿った道路となり、安全・安心なまちの復興再生を推進させるものとなっている。 ② コストに関する調査・分析・評価 入札により委託及び工事の契約締結したことや再生材の活用や現場発生材を有効利用したこと、さらに橋梁タイプの決定においては、経済性や施工性などを比較検討の上、最適案を採用したこと等から、事業コストは適切であったと評価できる。 ③ 事業手法に関する調査・分析・評価 ・想定した事業期間：平成24年4月～平成28年3月 ・実際に事業に有した事業期間：平成24年4月～令和2年12月 河川、圃場整備事業などの他工事との調整に不測の時間を要した。このため、関連する事業を含め、全体的なスケジュールを見直す必要が生じたが、他工事との工程調整を行い、円滑な事業進捗を図ることで、利用等に問題が生じることがなかった。また、類似事業と同程度の工程とすることができたことから、事業手法は適切であったと評価できる。 |
| 事業担当部局 福島県土木部道路整備課 電話番号：024-521-7476 |

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-1-27
事業名 道路事業（市街地相互接続道整備）（市道：百槻和田線）

事業費総額 514,962千円（国費 399,095千円）
 （内訳：本工事費 434,626千円、測量設計費 44,439千円、用地費及補償費 35,897千円）

事業期間 平成24年度～令和元年度

事業目的

東日本大震災により被災した地域から、市内の津波による被害がない安全な地域まで確実に通行できる道路を整備し、地域住民の生活の安全性・利便性の向上、及び地域経済産業の早期回復を図る。

事業地区

相馬市岩子地区

事業結果

岩子字宝迫地区と市街地の相互接続道を整備し、平成29年度から供用を開始。

【整備概要】

延長 L=1,519.9m、舗装幅員 W=7.0m



整備前



整備後

事業の実績に関する評価

①事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

本事業により、災害発生時に安全な市街地へ確実に通行できる道路を整備したことで、岩子字宝迫地区（令和3年3月末現在25世帯70名が居住）の地域住民の生活の安全性、利便性の向上に寄与している。

②コストに関する調査・分析・評価

本事業は、指名競争入札により事業発注している。また、再生材や現場発生材を有効活用して実施しており、コストは適切なものとする。

③事業手法に関する調査・分析・評価

| | 当初想定した事業期間 | 実際に有した事業期間 |
|-------|------------------|-----------------|
| 測量・設計 | 平成24年9月～平成25年3月 | 平成24年6月～令和元年12月 |
| 用地買収 | 平成25年1月～平成27年3月 | 平成27年6月～平成31年2月 |
| 工事 | 平成25年10月～平成28年3月 | 平成25年7月～平成30年3月 |

相続未了地や所有権以外の権利が登記された土地の用地交渉、及び道路法線に係る地元調整に不測の日数を要したことから、測量・設計及び用地買収の事業期間が当初

の想定より延長となった。事前に地権者等に了解を得た上で着工し、用地買収及びそれに伴う調査委託（測量・設計）については工事と並行しながら進め、事業期間全体の短縮を図った。

また、当時は復興工事が各地で重なり、労働者確保や他工事との工程調整に時間を要したが、全体的なスケジュールを見直し、円滑な事業進捗を図ったことにより、類似事業と同程度の工程とすることができ、利用等には問題がなかったことから、事業手法は適切であったと評価できる。

事業担当部局

相馬市建設部土木課 電話番号：0244-37-2158

位置図

